

たちかわ環境ワークショップ運営方針（案）

1. 目的

環境施策の推進にあたっては、市民、事業者、市が将来の立川の環境がどうあるべきかというビジョンを共有し、それぞれの立場に応じた幅広い取組が必要である。特に環境保全に関する取組は、その必要性については認識されている一方で、利便性・快適性や経済的な負担と相反する関係になることも多いことから、理解し、納得し、行動変容を起こすきっかけ作りが有効である。

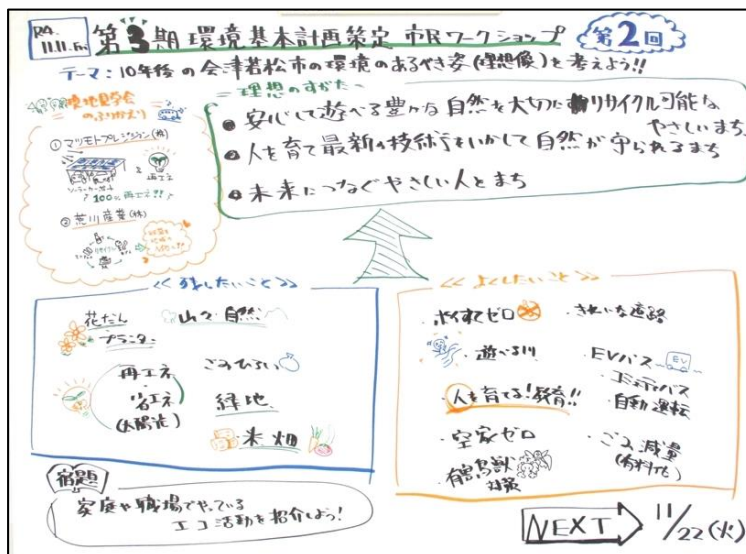
そこで、「第3次環境基本計画・地球温暖化対策実行計画（事務事業編・区域施策編）」を策定する上での参考とするため、市民意見聴取の一環として「たちかわ環境ワークショップ」を開催する。市民のみならず事業者や大学生・高校生にも参加してもらうことで、より実効性のある計画に繋げることが期待できる。

なお、市民同士で話し合うことを目的とした会議体には、市民検討委員会、市民会議、市民ワークショップなど様々な呼称があるものの、検討方法やアウトプットの取り扱いに大きな差異は見られない。本市では長期総合計画や公共施設再編などで用いられたワークショップという呼称が定着してきていることから、「第2次環境基本計画」では市民検討委員会としていたが、「第3次環境基本計画」ではワークショップとするものである。

2. 概要

ワークショップでは、参加者は様々な立場の方の多様な意見や考えに触れながら、自らの考えの変化や新たな気付きを得ることができる。最終的にはグループとして10年後の立川市の環境の目指すべき姿や、目指すべき姿を実現するためにそれぞれの立場でできることなどを一枚のポスターにまとめて発表する。それらを踏まえ、市は「第3次環境基本計画」や「地球温暖化対策実行計画（事務事業編・区域施策編）」の参考となる市民意見の報告書を取りまとめることとする。

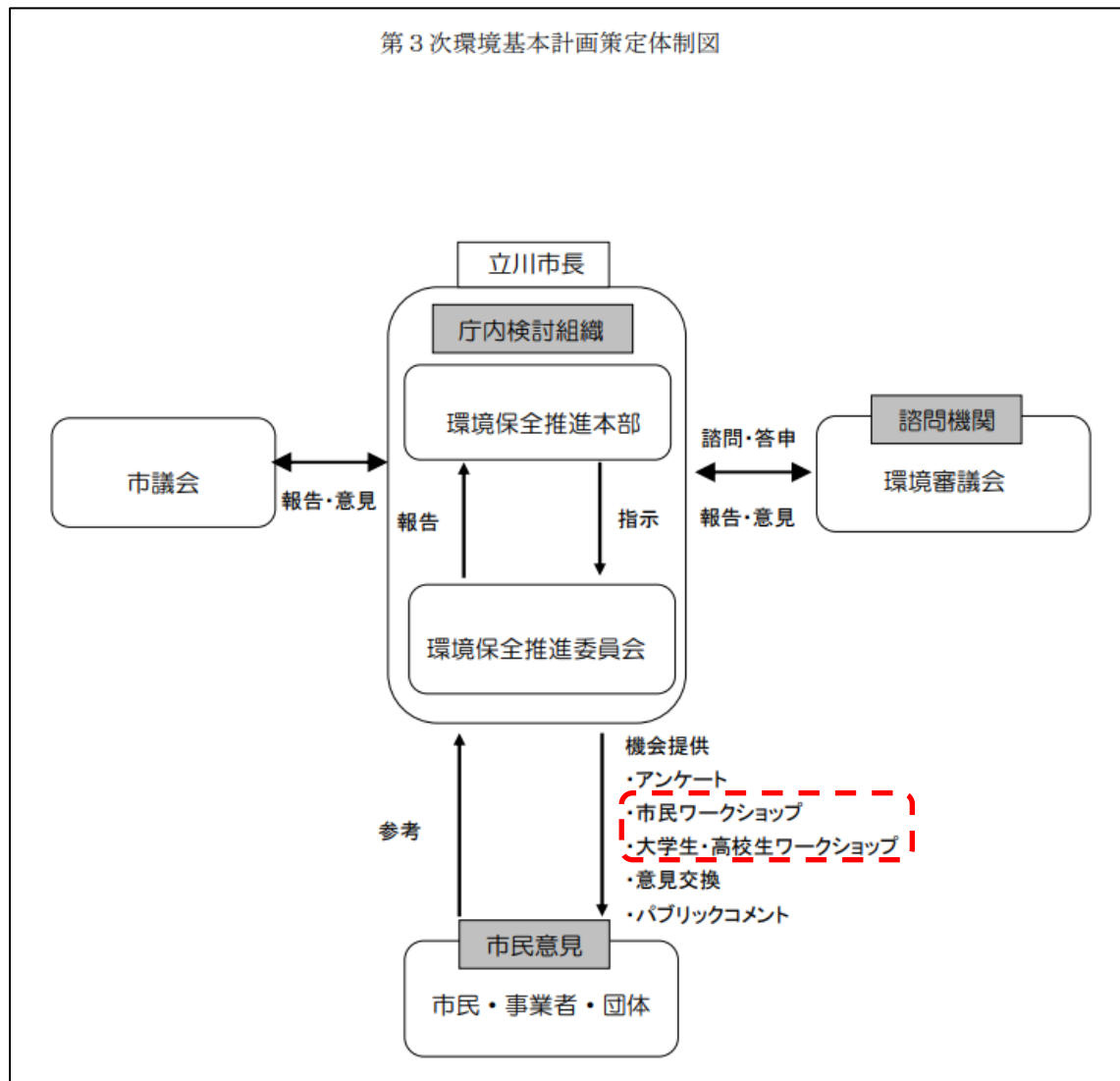
【ポスターイメージ等 ※出典：会津若松市 HP】





3. 位置づけ

ワークショップは市民意見聴取の一つの手法であり、市長の諮問に応じて調査審議を目的とする環境審議会とは位置づけが異なるものである。その為、ワークショップで各グループが検討する本市の環境のあるべき姿や具体的なアイデアなどは、計画の記載や市の施策に直結するものではないが、報告書として庁内検討組織や環境審議会にもフィードバックし、情報共有を図ることで参考とするものである。



4. 名称等

| 名称 | 開催日 | 参加者 |
|----------------------|--|---------------|
| たちかわ環境市民ワークショップ | 第1回:令和6年1月20日(土) 第2回:令和6年3月30日(土) 第3回:令和6年4月20日(土) | 16歳以上の市民及び事業者 |
| たちかわ環境大学生・高校生ワークショップ | 令和5年12月10日(日) | 大学生及び高校生 |

※参加者のうち希望者を対象として、立川市クリーンセンターたちむにいの見学を令和6年2月17日(土)に実施予定

5. ワークショップ検討体制

●公募・無作為抽出(16歳以上の市民、応募者多数の場合は抽選)、商工会議所推薦、商店街連合会推薦、包括連携等事業者、大学生・市内高校に通学する高校生の合計40名程度とする。

●参加者は1グループ7人程度、最大3グループに分かれて検討を行う。

●たちかわ環境市民ワークショップのグループ編成は、分野ごとの編成を想定する。グループ編成案は以下の通り。なお、申込時に第1希望、第2希望を聞くことでグループ編成の参考とする。

「ごみ減量・まちの美化(市民5~6名程度、事業者2名):1グループ」

「地球温暖化(市民5~6名程度、事業者2名):1グループ」

「自然環境保全(市民5~7名程度):1グループ」

●包括連携等事業者は、連携分野として「環境」を挙げている1事業者とし、グループワークには加わらず、事業者としての理念や取組を参加者に情報提供することで、参加者の気付きや議論の活性化を図ることを目的に参加する。

| 区分 | | 人数 |
|-----|---|--------|
| 市民 | 公募・無作為抽出(16歳以上市民) ※今後募集を予定している第14期立川市環境審議会の市民委員の応募と両方の申込みは不可 | 20名程度 |
| 事業者 | 商工会議所推薦 | 2名 |
| | 商店街連合会推薦 | 2名 |
| | 連携事業者(花王) | 1名 |
| 若者 | 大学生・市内高校に通学する高校生 | 10~15名 |

6. 子ども委員会からの提案

●環境審議会から要望や意見があった子どもの意見については、子ども育成課が所管する「子ども委員会」の中で環境に関連するテーマが昨年度に続いて、今年度も取り上げられていることから、その結果をワークショップ等にフィードバックする。

●「子ども委員会」は小学校4年生から18歳までの委員で構成され、例年、6月から2月までの計7回で、まちや生活の中で、子どもたちが関心を持っていることや、良くしたいと感じていることについて、話し合いをし、市長への提案書を提出する活動を行っている

る。

●昨年度は安全でみんなにやさしいまちにしたいというテーマで、「防犯・防災チーム」と「環境整備チーム」が発足し、「環境整備チーム」は環境対策課から地球温暖化の話やIKEA 立川から事業者としての取組を聞き、参加委員で協議して、市への提案を取りまとめた。

●過去には「きれいなまちづくり」「動物の保護活動」「緑化活動」「川をきれいに」といったように、環境に関するテーマが多く取り上げられている。

7. 運営体制

●市及び市が助言を求める学識経験者（以下、「学識経験者」）、市が検討業務支援を委託する会社（以下、「コンサルタント」）が共同で行い、その役割は以下のとおりとする。

| 区分 | 主な役割 |
|--|--|
| 市 | <ul style="list-style-type: none">・コンサルタントが企画提案する各回ワークショップの企画及び資料について検討し、決定する。・市の現状や課題認識、取組等について参加者に情報提供等を行う。・各グループに1名参加し、コンサルタントが配置するファシリテーターの補佐や参加者からの質疑にも対応する。 |
| アドバイザー 一橋大学大学院 山下 英俊先生 大妻女子大学 甲野 毅先生 | <ul style="list-style-type: none">・企画提案時にコンサルタント及び市に対して助言をする。・ワークショップへ出席し、世界や国の動向、最新の知見等の情報提供や重要な検討課題の示唆等を専門家の視点から行い、円滑に話し合うための助言を行う。・環境分野は幅が広く、分野ごとの得手不得手もあることから、学識の参加は2名とする。 |
| コンサルタント | <ul style="list-style-type: none">・ファシリテーターの配置や資料準備、資材の手配等を含む、ワークショップ全体の企画提案・運営・進行管理を行う。・ワークショップのアウトプットとして、市役所多目的プラザでの展示を想定したポスターやパネル、各回の検討の様子などをまとめた報告書を作成する。 |

8. 募集

【公募】

公募期間：令和5年9月10日（日）～令和5年10月6日（金）

周知方法：市広報（9/10号）、ホームページ、ツイッター等、公共施設へのチラシ設置、環境関連団体（エコパートナー等）への案内

【無作為抽出】

募集期間：令和5年9月15日（金）～令和5年10月6日（金）

周知方法：環境に関するアンケート（2000人）の中に案内チラシを同封

【事業者・大学生・高校生】

依頼期間：7月～9月

依頼方法：事業者及び学校への説明及び推薦依頼

9. 記念品

- 参加1回につき図書カード1,000円分、限定たちむにい缶バッジ

10. 目標等

- 10年後に実現を目指す環境像や大きな取組の方向性に繋がるキーワードや、市民の生活実感に基づく本市の環境のあるべき姿などを把握し、計画の参考にすること。
- 市民や事業者といった様々の立場の方の意見も踏まえながら、グループごとに立川市の環境の目指すべき姿や大きな取組の方向性、また、それに繋がるアイデアを取りまとめて発表すること。
- 計画や事業の説明会のように市と質疑応答したり、市に要望を出したりする場ではなく、市民や事業者、若者がグループ内で話し合い、議論を通じて収れんしたグループとしての意見を、市が把握するための場とする。

11. ワークショップの周知・成果

- 途中経過や最終的な報告書を作成し、環境審議会の委員に配布するとともに、市広報、ホームページ等で周知する。
- ワークショップの最終的な成果のとりまとめ結果を本庁舎1階多目的プラザにパネル展示し、来庁者や事業者などワークショップに参加していない一般市民に広く見て頂くことを目的とする。
- 参加者の作成するアウトプットはポスターとして取りまとめるなど、グループでの議論を収れんさせたものとする。
- ワークショップ中で参加者に情報提供する、花王による事業者としての環境への取り組みなどの展示も検討する。
- 第3回市民ワークショップでアウトプットが完成しなければ、以降はコンサルが責任をもって整理し、展示前に参加者に確認をしてもらう。

12. ワークショップの各回の構成

ワークショップで報告を取りまとめるまでの構成とねらいは、以下のとおりとする。但し、各回の進行案はコンサルタントの提案等により適宜変更を行う。なお、アドバイザーとして参加する山下先生、甲野先生はグループ間を自由に移動し、全体の検討の進捗状況を観察しつつ、参加者やグループなどからの質問への対応や必要な情報提供を求められた場合への対応などを行う。

【市民ワークショップ 第1回】

ねらい

ワークショップの狙いの明確化、世界や日本、市を取り巻く環境に関する大きな動きの理解、環境に関するアンケートの情報共有。また、実際に簡単なワークを体験するなど、第2回以降の検討を円滑に進めるための準備を整える。

テーマ

立川市の環境の良いところ、悪いところ

進行案

- (1) 市より、ワークショップの目的、位置づけ、進め方等を説明：10分程度
- (2) 市より、環境に関するアンケート結果を説明：10分程度
- (3) 各グループで意見交換：80分程度
- (4) グループごとに検討内容の発表及び発表内容に対する講評による全体共有：20分程度

【市民ワークショップ 第2回】

ねらい

環境保全のために自分たちが行っていること、やりたいと思っていること、やらなければならないことなどを共有し、課題や解決方法、役割分担を検討し、環境像や基本方針に繋がるキーワードを把握する。

テーマ

立川市の10年後のあるべき姿

進行案

- (1) 市より、前回ワークショップのおさらい：5分程度
- (2) 子ども委員会結果報告：5分程度
- (3) 各グループで意見交換：90分程度
→環境保全のために自分たちが行っていること、やりたいと思っていること、やらなければならないことなどを共有し、課題や解決方法、役割分担を検討し、環境像や基本方針に繋がるキーワードを把握
- (4) グループごとに検討内容の発表及び発表内容に対する講評による全体共有：20分程度

【市民ワークショップ 第3回】

ねらい

今までの議論を整理し、発表用のポスター作成を作成し、グループごとに全体に発表する。質疑応答も行うことで、自分たちのまとめた考えに責任をもってもらう。

テーマ

第2回で議論した話題の深掘り

進行案

想定される話題：ごみ減量・地球温暖化対策 → 市民の取り組みを広げるための工夫

自然環境保全対策 → 具体的にどのような取り組みを進めるべきか

- (1) 市より、前回ワークショップのおさらい：5分程度
- (2) 大学生・高校生ワークショップ結果報告：5分程度
- (3) 包括連携等事業者（花王）の事業者の取組み紹介：30分程度
- (4) 各グループで意見交換・ポスター作成：70分程度

- (5) グループごとに検討内容の発表及び発表内容に対する講評による全体共有：15分程度
- (6) 市より、ワークショップ結果の取り扱い、計画策定までのスケジュール等について説明：5分程度

【大学生・高校生ワークショップ】

ねらい

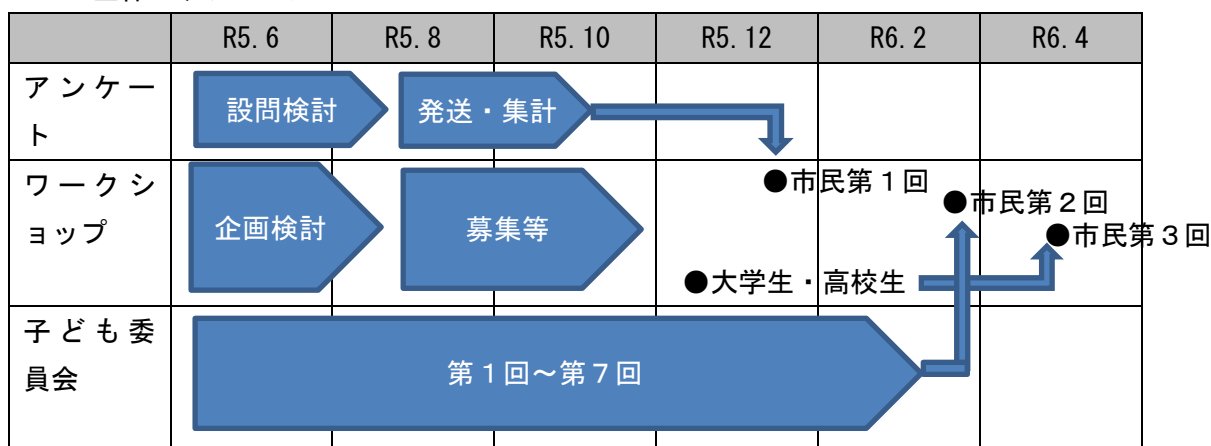
基礎自治体としての環境施策は啓発活動が主であり、啓発は若い世代への働きかけが効果的と考えられることから、若者自身がどのようなイベントや講座があれば参加してみたいと思うかや、若者の環境配慮行動に繋がるための仕掛けや仕組みについて議論してもらい、環境について考えるきっかけとする。

テーマ

環境配慮行動への参加者を拡大するためのアイデア

- (1) 市より、ワークショップの目的を説明：5分程度
- (2) 自己紹介：5分程度
- (3) 通学や遊びなどで訪れた際に感じる立川市の環境の良いところ、悪いところについての意見交換：15分程度
- (4) 環境に関して自分たちが興味を持っていること、気になっていることなどについての意見交換：15分程度
- (5) 環境配慮行動への参加者を拡大するためのアイデア（講座・イベントなどの工夫、アイデア、情報発信の工夫など）についての意見交換：70分程度
- (6) グループごとに検討内容の発表及び発表内容に対する講評による全体共有：10分程度
- (7) 希望者は、市職員や参加者同士の交流：30分程度

13. 全体スケジュール



14. ワークショップ全体イメージ

